重要自然マップ 2015

三陸南部

凡例

※2015年段階の情報を元に作成しています。

- 津波浸水域(拡大図では白枠)
- 重点エリア拡大図範囲

■海域

① 藻場
- 大型褐藻類藻場(2012-2013)
- モニタリングサイト1000（藻場）
- 生態系監視調査

② アマモ場
- アマモ場(2012-2013)
- モニタリングサイト1000（アマモ場）
- 生態系監視調査

③ 干潟
- 干潟(2014-2015)
- モニタリングサイト1000（干潟）
- 生態系監視調査
- 有識者による情報

■陸域

④ 砂丘（砂浜）
- 砂丘（砂浜）
- 砂丘（砂丘植生）

⑤ 海岸断崖地の自然植生
- 海岸断崖地の自然植生

⑥ 残存樹林地
- 残存樹林地（自然林）
- 残存樹林地（二次林）
- 残存樹林地（植林等）

⑦ 樹林跡地(モザイク状の多様な攪乱環境)
- 樹林跡地(モザイク状の多様な攪乱環境)

⑧ 湿生草原
- 湿生草原（淡水性）
- 湿生草原（塩性）

⑨ 二次草原
- 二次草原

⑩ 非耕作農地（水田雑草群落）
- 非耕作農地（水田雑草群落）

⑪ 河川・湖沼等開放水域
- 河川・湖沼

■その他重要な自然を補足する情報

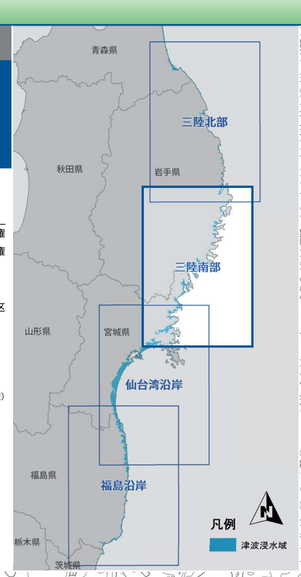
- レッドリスト掲載種の生育地（植物）
- レッドリスト掲載種の生息地（動物）

※それぞれの種名については非公開としています

- 特定植物群落（第5回基礎調査）
  ※津波浸水域周囲のみ
- 日本の白砂青松百選
- 日本の渚百選
- 日本の音風景百選
- 日本のかおり風景百選
- 日本の快水浴場百選
- 未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選
- ガン・カモ類（モニタリングサイト1000（ガン・カモ類）、ガン・カモ類の生息調査）
- シギ・チドリ類（モニタリングサイト1000（シギ・チドリ類））
- 海鳥（モニタリングサイト1000（海鳥）、生態系監視調査（海鳥））
- 社寺位置
- ジオサイト（三陸ジオパーク）
- みちのく潮風トレイル
- 重点地区調査ベルトトランセクト
- 重点地区調査地点
- 保全について議論されている区域
- 保全対策区域
- 保護区

■法規制

- 区画漁業権
- 共同漁業権
- 国立公園
- 国定公園
- 鳥獣保護区



11 志津川湾

モニタリングサイト1000（藻場）

アラメ、ワカメ等の暖海性コンブ目とホソメコンブ、マコンブ等の寒海性コンブ目が同所的に分布する海域の代表的な藻場の一つ。2014 年調査では、地盤沈下の影響でアラメの生育に適した 1 ～ 3m の水深帯が岸寄りに移動し、それに対応してアラメの分布も岸寄りに移動していた。

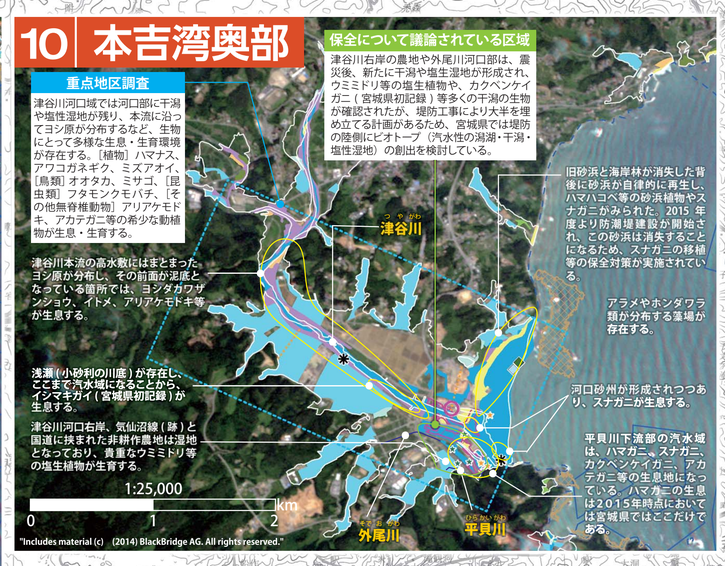
10 本吉湾奥部

重点地区調査

津谷川河口域では河口部に干潟や塩性湿地が残り、本流に沿ってヨシ原が分布するなど、生物にとって多様な生息・生育環境が存在する。［植物］ハマナス、アワコガネギク、ミズアオイ、［鳥類］オオタカ、ミサゴ、［昆虫類］フタモンクモバチ、［その他無脊椎動物］アリアケモドキ、アカテガニ等の希少な動植物が生息・生育する。

保全について議論されている区域

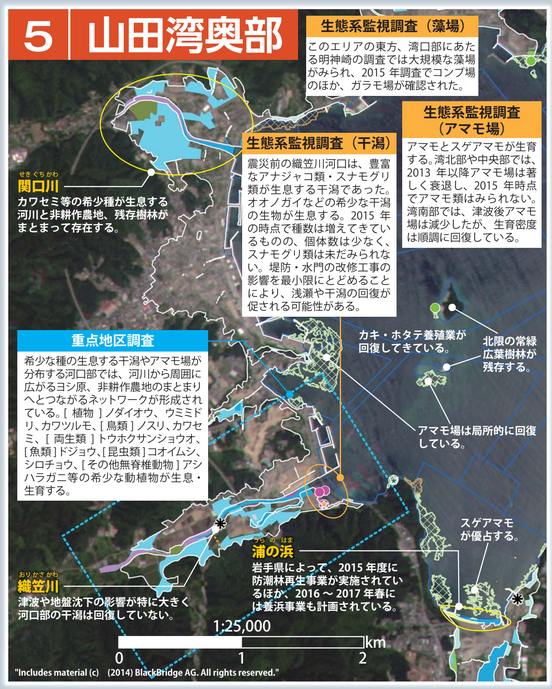
津谷川右岸の農地や外尾川河口部は、震災後、新たに干潟や塩生湿地が形成され、ウミミドリ等の塩生植物や、カクベンケイガニ（宮城県初記録）等多くの干潟の生物が確認されたが、堤防工事により大半を埋め立てる計画があるため、宮城県では堤防の陸側にビオトープ（汽水性の潟湖・干潟・塩性湿地）の創出を検討している。



5 山田湾奥部

生態系監視調査（藻場）

このエリアの東方、湾口部にあたる明神崎の調査では大規模な藻場がみられ、2015 年調査でコンブ場のほか、ガラモ場が確認された。



12 北上川河口域

重点地区調査

調査ラインの周辺は排水工事や埋め立てが進み、震災後、新たに湿地となった箇所も半分ほどが埋め立てられた。これらのうち、調査ラインの内陸側に残った湿地ではリュウノヒゲモの繁茂や水際植生の再生や遷移がみられた。［植物］タコノアシ、リュウノヒゲモ、ミズアオイ、ミクリ、［鳥類］ミサゴ、イヌワシ、［魚類］ミナミメダカ、［昆虫類］ヒヌマイトトンボ、［その他無脊椎動物］アカテガニ、ヤマトシジミ等希少な動植物を確認した。

6 船越湾奥部

モニタリングサイト1000（アマモ場）

船越湾及びその周辺海域には、アマモ、タチアマモ、スゲアマモ、オオアマモ、スガモの 5 種が出現する。津波によりアマモ場はほとんどが消失し、2014 年の時点でもアマモ類の繁茂状況は震災前に比べて著しく低密度なままになっている。

周辺の注目すべき場

6a 荒神、弁天島
砂浜と岩浜が隣接する貴重な場。マガキ、テングヨコエビ等が生息する。

6b 小谷島
淡水が集まる豊な湿地が存在したが、圃場整備が実施され、一部が保全区に移設された。

6c 前須賀
希少な植物や昆虫が生育・生息する砂浜が存在したが、防潮堤の工事用地としての利用が予定されており、保全区として一部が残される他、根茎や種子の保全等を船越小学校と岩手県立大学が共同で実施している。

7 大槌湾奥部

ミズアオイとビオトープ再生の取組

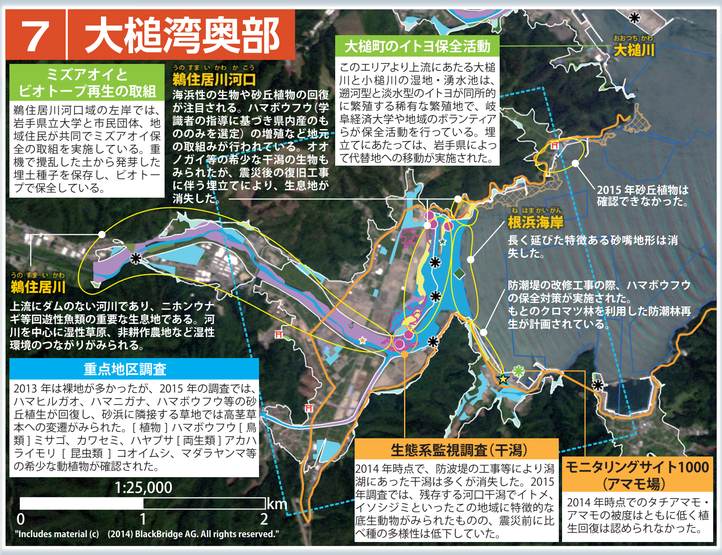
鵜住居川河口域の左岸では、岩手県立大学と市民団体、地域住民が共同でミズアオイ保全の取組を実施している。重機で攪乱した土から発芽した埋土種子を保存し、ビオトープで保全している。

鵜住居川河口

海浜性の生物や砂丘植物の回復が注目される。ハマボウフウ（学識者の指導に基づき県内産のもののみを選定）の増殖など地元の取組みが行われている。オオノガイ等の希少な干潟の生物もみられたが、震災後の復旧工事に伴う埋立てにより、生息地が消失した。

大槌町のイトヨ保全活動

このエリアより上流にあたる大槌川と小槌川の湿地・湧水池は、遡河型と淡水型のイトヨが同所的に繁殖する稀有な繁殖地で、岐阜経済大学や地域のボランティアらが保全活動を行っている。埋立てにあたっては、岩手県によって代替地への移動が実施された。



9 気仙沼湾西部

舞根湾の干潟保全活動

河口部の干潟は津波と地盤沈下のため消失したが、陸域に新たに塩性湿地や干潟が形成された。また、地盤が上昇し始めていることから、将来的に干潟が復元する可能性がある。NPO と学識者が環境調査や環境教育活動を実施し、住民合意により防潮堤設置は取りやめとなり、震災後出現した干潟の維持・保全が継続されている。

8 広田湾奥部

重要地区調査

非耕作農地では、乾性草本群落への遷移や復旧、造成地への変化がみられた。新たに形成された湿地では、希少種であるミクリの繁茂もみられた。［植物］タコノアシ、ミズオオバコ、ミズアオイ［鳥類］バン、コチドリ、［昆虫類］マダラヤンマ、ヤホシホソマダラ、［その他無脊椎動物］モノアラガイ等の希少な動植物が確認された。

1:120,000
0 5 10 km

平成 28 年 3 月発行　環境省自然環境局生物多様性センター
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図 20 万を複製したものである。（承認番号　平 27 情複、第 1348 号）」

環境省 自然環境局 生物多様性センター Biodiversity Center of Japan